

粘りのサッカーで  
二年ぶりの全国大会へ

遠野高校サッカー部

百分間にわたる熱闘

第八十六回全国高校サッカー選手権大会は十一月四日、盛岡南公園球技場で決勝戦が行われ、PK戦の末、遠野高サッカー部(松田光弘監督、部員五十一人)が二年ぶり、二十一度目の全国大会出場を決めました。

前回の全国覇者・盛岡商業高校(以下、盛岡商)対、前々回全国ベスト4の遠野高校(以下、遠野)の五年連続同一カード。注目の対戦とあつて会場は早くから超満員に。試合は一進一退の攻防が続き、両校とも譲らず前後半無得点のまま延長戦へ。

延長前半六分、コーナーキックから盛岡商・林選手がヘディングシュートで先制。試合の流れが盛岡商に傾いたかと思われたものの、一点を取られても選手たちに焦りはなかった。松田監督。延長後半残り三分、遠野はコーナーキックからDF山崎陽平選手(三年)が競り合ったこぼれ球をMF鈴木涼選手(二年)が

頭で合わせ執念の同点ゴール。そして、勝負はPK戦に。

試合中、再三にわたる好セーブを見せていたGK植松健太郎選手(二年)はここでも大活躍。盛岡商最初のキッカー・林選手のシュートを見事に止め、相手にプレッシャーを与えます。その後盛岡商の二人がゴールを外す中、遠野は落ち着いて三人が決め劇的な勝利をものにしました。

全国初戦は一月二日

十一月七日、優勝の報告に市役所を訪れた松田監督は「全国では期待に恥じない試合をするべく、コンディションを整えいいゲーム作りをした」と話しました。キャプテンの菊池智史選手は「全国大会までに課題を改善し、初戦突破を果たしたい」と決意を述べました。

全国大会は、四十八チーム(東京は二代表)が参加して十二月三十日の開幕から一月十四日の決勝戦まで熱戦が繰り広げられます。

遠野は、昨年盛岡商が優勝しているため、一月二日の二回戦から登場。組み合わせ抽選会は十一月十九日、東京都の日本テレビタワーで行われ、初戦は島根県代表の江の川高校と対戦することが決まりました。会場はさいたま市の駒場スタジアムで、午後零時三十分のキックオフです。皆さんの応援をよろしくお願いします。

遠野	1	0-0 0-0 0-1 1-0 3PK 2	1	盛岡商
延長後半7分	鈴木	得点者	延長前半6分	林



1再三にわたるピンチも、好セーブでしのいだGK植松健太郎選手2果敢に相手ゴールに攻め入るFW大上洋人選手3応援スタンドには全校生徒や教職員、OBらが駆けつけ必死の声援を送った4小野寺吾老・県サッカー協会会長から表彰を受ける菊池智史主将



伝統の粘り強いサッカーで全国大会出場を決めた遠野高校の選手たち